



「中干し」を実施しましょう!!

茎数が少なめに推移していることから、分けつを確保するため、中干しの開始まで浅水管理を継続しましょう。

中干し開始本数になった圃場は、遅れずに中干しを実施しましょう。

中干し終了時期 ゆめみづほ：6月30日頃、コシヒカリ：7月10日頃

うまい・きれい かほく米づくりの運動では10の技術の実践を推進しています。確実に実践しましょう。

	推進技術	目標	チェック
1~6	1. 播種量（うす播きの励行） 2. 育苗日数（健苗の育成） 3. 植付本数（3~4本植えの励行） 4. 適正な栽植密度（優良茎の確保） 5. 適正な施肥（栄養凋落防止と登熟向上） 6. 田植え時期（早植えの防止）		
7	中干し・溝切り (遅発分けつの抑制)	・ 田植え1か月後からの実施（過剰生育防止） ・ 中干し期間1か月（コシヒカリ）の遵守	
8	除草・防除 (畦畔等除草とカメムシ防除の徹底)	・ 7月上旬までの追加除草 ・ 水稻の生育ステージにあわせた適期防除の実施	
9	水管理 (飽水管理の徹底)	・ 中干し後から出穂までの約1か月（コシヒカリ）の飽水管理 ・ 出穂から刈取り直前までの1か月以上の飽水管理	
10	刈取時期 (適期刈取りの励行)	・ 籾の黄化程度に応じた刈取り	

水稻の生育状況

生育状況（管内生育観測田平均、5月29日調査）

ゆめみづほ					コシヒカリ				
草丈 (cm)		茎数 (本)			草丈 (cm)		茎数 (本)		
本年	平年	本年 (株)	本年 (㎡)	平年 (㎡)	本年	平年	本年 (株)	本年 (㎡)	平年 (㎡)
21.7	23.7	11.5	204	211	22.9	25.9	9.5	193	135

- 株で き：茎数はゆめみづほは平年並み、コシヒカリは多くなっています。
⇒目標茎数（ゆめみづほ：15~18本、コシヒカリは13~16本）を確認したら、中干しを開始しましょう！
- 葉数の展開：ゆめみづほ、コシヒカリともにやや早いです。
- 出穂：ゆめみづほの出穂期は平年並みと見込まれています。

今月のポイント1 ゆめみづほの穂肥

目指そう! ゆめみづほの600kgどり

基肥一発肥料への追加穂肥の施用

近年の登熟期の高温による栄養凋落防止のため、追加穂肥の施用で登熟を向上させましょう。

基肥	施用時期	肥料名	施用量
BBスリム 早生一発くん	7月8~10日 (出穂1週間前~ 走り穂が出る頃まで)	BBとれる ぞう (15-5-10)	7~10kg /10a
BB早生 一発くんNEO	穂肥不要		

※葉色が濃い圃場は施用しない。(ゆめみづほで葉色板5以上)
※玄米タンパク質含有率が高まるので、**出穂期以降は絶対に施用しないこと。**

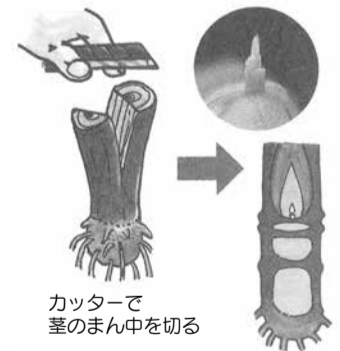
★穂肥の時期が早すぎたり施用量が多すぎると籾数が過剰になり、未熟粒の発生や倒伏の原因となりますので、必ず適期に適量を施用してください。

分施タイプ（一発肥料を使用していない圃場）

穂肥の施用時期と施肥量

1回目 BB有機入りいしかわライト550 20kg/10a
幼穂長3~5mm 出穂23日前 6月24日~27日
2回目 BB有機入りいしかわライト550 20kg/10a
止葉展開 出穂10日前 7月7日~10日

ゆめみづほ 幼穂長 3mm (出穂20日前)



注) 幼穂長を確認してから穂肥を施用しましょう。

ゆめみづほ
1回目穂肥時期
(出穂20日前の標準的生育)

草丈 50~55cm
茎数 30~35本/株
葉色 4.0~4.2

※葉色は、営農の手引き裏表紙の葉色見本をご参考下さい。

裏面に続きます

「ゆめみづほ」の一俵增收! 一発肥料でも穂肥を

病害虫防除は遅れないように確実にいきましょう!

カメムシ防除のため、7月上旬までに畦畔・農道等の仕上げ除草を！

6月17日、18日は一斉除草デーです！

今月のポイント2 コシヒカリの登熟向上対策 ⇨営農の手引き33ページも参照ください

珪酸加里プレミアム 30kg/10aまたは **PKけいさん特号 40kg/10a**をまだ施用していない方は早めに施用しましょう。(6月15日～20日まで)

○「けい酸パワーコシー発くん」を施用した圃場には散布する必要はありません。

今月のポイント3 カメムシ対策 ⇨営農の手引き36ページも参照ください

- ①カメムシの生息密度を下げるため、畦畔・農道等の除草を行いましょう。
→刈った草が用排水路に入らないように注意しましょう。
- ②7月上旬までに仕上げ除草を実施し、中旬以降の草刈りは行わないようにしましょう。
→7月10日以降の草刈りはカメムシ類を水田内に追い込むことになります。

今月のポイント4 稲こうじ病の防除対策 ⇨営農の手引き36ページも参照ください

「Zボルドー粉剤DL」：散布量は4kg/10a、散布時期は出穂の14～10日前です。
(早生：7月6日頃、コシヒカリ：7月中旬)

「モンガリット1キロ粒剤」：散布量は1kg/10a、散布時期は出穂の21～14日前です。
(早生：7月2日頃、コシヒカリ：7月中旬)

- 常発地や過去3年以内に発生した圃場では、必ず継続して散布を行ってください。
- 玄米に混入すると規格外となります。

今月のポイント5 乳白粒発生防止対策

～幼穂形成期から出穂後3週間までの水管理は間断通水で～

稲は、幼穂ができ始めてから出穂後3週間までの間に最も水を必要とします。

(幼穂形成期=ゆめみづほ；6月30日頃、コシヒカリ；7月10日頃)

中干し後は3日間隔の間断通水を行い、土壌表面が常に湿った状態に保ちましょう。

今月のポイント6 イナゴ対策

昨年、イナゴが発生した地区については「トレボン粒剤」を2～3kg/10a散布してください。
6月中旬～7月中旬の散布が最適です。(湛水状態で散布してください。)

トータルコスト低減運動

No.	項目	具体的なコスト低減の要因	概算低減率
労働費低減	1 畦畔管理時間の削減	除草剤、抑草剤を組み合わせた畦畔管理による作業時間の削減	畦畔除草作業効率30%
	2 カメムシ防除タイミングの最適化	発生予察に基づく臨機・適期防除、畦畔除草の徹底	防除作業効率10%
生産性向上	1 最適な施肥手法	肥料の種類、施肥体系の見直しや早生品種の追加穂肥(とれるぞう)による収量の向上	収量向上
	2 水管理の徹底	生育状況と生育環境に適した水管理の徹底による品質の向上	品質向上

ゆめみづほ現地講習会日程

開催日	曜日	開催時間	開催場所
6月23日	金	18:00～	JAグリーン前

◎開催内容について

1. ゆめみづほ1俵増収のポイント
2. コシヒカリの本田雑草対策のポイント
3. カメムシ(斑点米)対策のポイント
4. 早生品種の穂肥診断と今後の管理について

水稻栽培履歴への記入確認をお願いします。

◎営農に関するお問い合わせはJA(☎288-7555)、津幡農林事務所(☎289-4158)におたずねください。